

第2回 天草地域世界遺産登録推進連絡会議  
～天草がつなぐ世界とみらい～

主催：天草地域世界遺産登録推進連絡会議（天草市・上天草市・苓北町）

日時：2017年11月16日（木）13：30～

会場：天草市民センターホール

プログラム

第1部 第2回 天草地域世界遺産登録推進連絡会議

- ・会長あいさつ
- ・来賓祝辞
- ・世界遺産の取り組み等 天草市世界遺産推進室長 丸林眞吾

第2部 シンポジウム

パネルディスカッション「世界遺産登録を目指して」

- パネリスト 元駐バチカン大使 上野景文  
学校法人上智学院理事長 高祖敏明  
天草市学芸員 平田豊弘

～世界を歌で結ぶ～癒しのコンサート

- 元NHK うたのおねえさん 田中あつ子

<パネルディスカッション 概要>

①長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産～天草とその周辺における潜伏キリシタン～

パネラー：平田豊弘（天草市世界遺産推進室学芸員）

江戸幕府のキリスト教禁教政策の中、信仰を継続した人々は、既存の社会や宗教とうまく共生をしながら信仰を守ってきた。この日本独特の伝統を育んだ地域を、世界遺産登録へ向けて推薦をしている。その構成遺産は12遺産からなり、現在、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」として平成30年度の世界遺産登録を目指している。

構成資産の中でも、天草の崎津集落は「天草崩れ」での自白証書に克明に記録として残されており、漁村独特の信仰を示すものがあり、潜伏キリシタンが日常でどの様な祈りを捧げていたのかが証明できる。

資産を守るだけではなく、住民との理解を深め、観光資源、地域資源、文化資源、教育資源としての活用も共に考えていかなければならない。

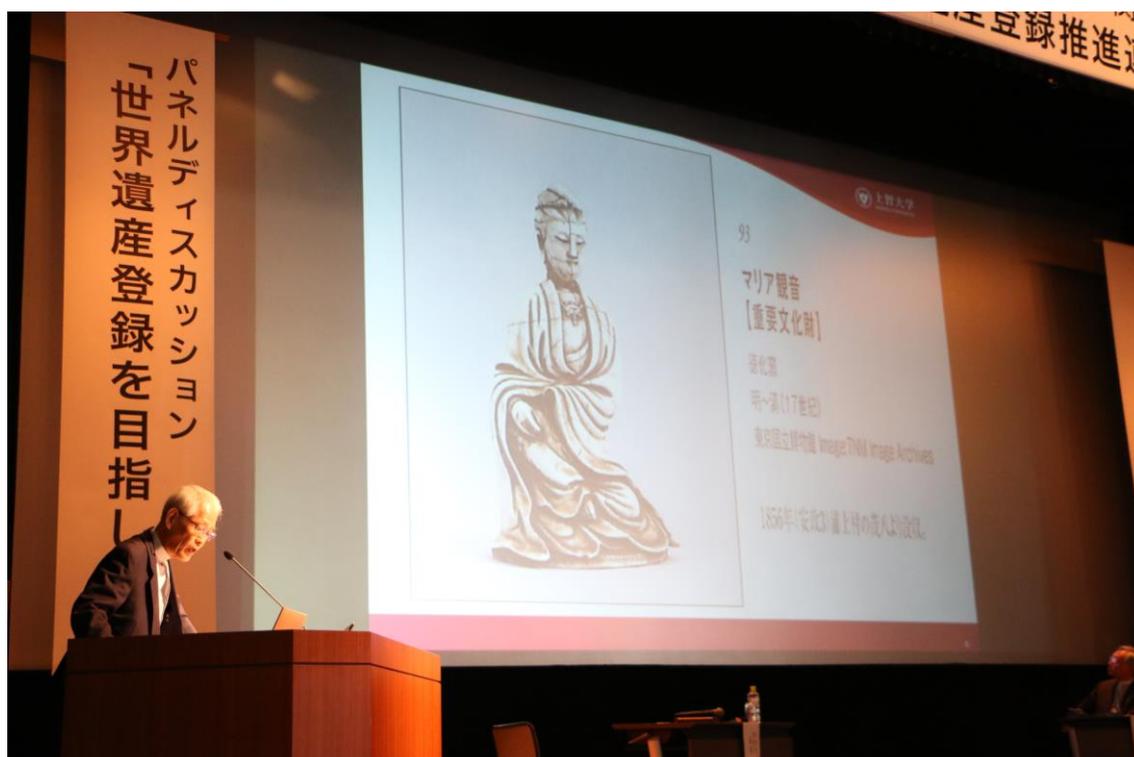
## ②日本全土にみる潜伏キリシタン—五島・奈留島と茨木市・千提寺を例に—

パネラー：高祖敏明（学校法人上智学院理事長）

潜伏キリシタンの実態を知る手がかりは、迫害の時に隠されていたものであるから、それらの発見、発掘、証明は非常に難しい。

潜伏キリシタンの末裔などの聞き取り、カトリック弥撒・儀式との違いや禁教後の活動をたどることは、探りだすことの難しさがある。古文書も読み解け、キリスト教信仰に関わる知識をもった人の存在が重要。57年前にNHKが取材した、迫害にあった後も口伝えでオラショを唱える再現映像があったが、現在はもう存在しない。

— 五島・奈留島に禁教期のキリシタン研究会のメンバーとして現地調査した時にNHKが同行取材したニュース映像と、本州最後の隠れキリシタンがいたところではないかといわれている茨木市・千提寺周辺地域の映像を交えて紹介 —



### ③バチカン教皇庁からみた潜伏キリシタン

パネラー：元駐バチカン大使 上野景文

潜伏キリシタンの歴史は、日本の歴史に留まらない、世界的な意味をもっている。400年前のことではあるが、極めて現代的な意義を持っていると考える。過去に西ヨーロッパが世界的に拡大していく中で、ヨーロッパとローカルな地域との間で緊張関係がおきた。国と国との緊張関係の中で、日本のケースでは、庶民にそのしわ寄せが来たと思っている。そういうことは現代においても世界で見られることだ。

現フランシスコローマ法王は、就任以来日本の潜伏キリシタンについて具体的に話をしている。2014年1月の1万人が集まる一般謁見で、日本のキリスト教共同体というのは、17世紀はじめに迫害を受けた。日本のキリシタン達は、聖職者が追放された後も秘かに信仰と祈りを守り続けてきた、そして250年後に公に再びキリスト教が栄えることになった。彼らは孤立し隠れてはいたけれど神の一員としてアイデンティティーを維持していた。この歴史から多くのことを学び取ることが出来ると話した。

現在の国際情勢、社会情勢を見回してみると、キリスト教徒だけではなく多くの宗教者が抑圧、迫害されたり、テロの被害にあったり、厳しい状態が展開している、そういうことを念頭に置いて法王としては発言をされた、と私は思っている。

